

第 18 回平成医政塾勉強会 平成 21 年 6 月 13 日（土）

医師会の政治への関わり

斉田 幸次先生

久禮 文雄先生

「背景」：麻生内閣は平成 20 年に福田内閣より政権を受け継ぎ、解散内閣と言われましたが、なかなか解散せず、衆議員任期真近の 8 月 30 日に総選挙を行うことを決めました。医療に関しても、大きな問題が山積しております。後期高齢者医療制度、レセプトオンライン請求義務化、医療費抑制政策、医療崩壊の問題などです。今回の選挙は、民主党と自民党が拮抗、あるいは、政権交代するかもしれない情勢の中で、各政治団体の医療政策を良く聴く。また、政治とどうかかわればよいかの参考になるために、勉強会が開かれました。

斉田 幸次先生講演サマリ -

国政選挙における会員の投票行動は所属組織の意思表示そのものであるとの考えから、平成 19 年参議院選挙を対象に会員の投票率及び政党支持先を調査しました。

大阪府民全体が 56% であったのに対し、病院長 86%、診療所長 82%、勤務医 72% と予想外に高率でありました。支持政党は、支持政党なしが 4 割強ですが、ありと答えた中では自民党と民主党がほぼ拮抗しており、一般社会での傾向を反映したものとなっていました。

この会員調査は 2 年ごとに行われていますが、政党支持率の経時的変化を追っていくと一般社会の支持率を良く反映していることが分かります。

久禮 文雄先生講演サマリ -

医師会は国民医療をも守る立場から、国の医療政策に積極的に参画していく必要があります。発言力を確保するために、政党に対する一定の影響力を持つことが重要だが、そのためには国政選挙における組織内候補にどれだけ得票を集約できるかが問題であります。

第 19 回、第 20 回、第 21 回参議院選挙の医師会組織内候補の得票数と現状の傾向を分析し、医師政治連盟の組織率と比較検討しました。

検討は地区医師会単位と都道府県医師会単位で行い、A 会員一人当たりの得票数を指標として用いました。

第 19 回と第 20 回とを比較すると、1.08 票から 1.83 票へ第 20 回の得票数が 70% の増加を示しています。更に第 21 回は 0.24 票でありました。それぞれの選挙の特徴は、第 19 回が日医の選挙態勢に通常の対応したのに対し、第 20 回は全国平均以上の強力なキャンペーンを行い、第 21 回は組織内候補に対し否定的に対応しています。

医師会全体は執行部のキャンペーンに良く反応しています。しかし各地区を比較すると、3 回の選挙を通じて得票数が増減したにもかかわらず、得票の高い地区は一貫して高く、低い地区は 3 回とも低いという結果が出ました。政治意識の違いが反映されているようです。

次に、医政連の組織率が選挙の得票と関連するか検討しました。各選挙毎に医政連の組

組織率の増減と得票数の増減との相関を検討した結果、関連は無いと結論しました。医政連の組織率が高くなったからと言って、得票の増加には結びついていないのであります。

大阪府全体の医政連の組織率は年を追って減少しており、別途の問題として考える必要があります。

3回の選挙をと同県別に検討してみると、日医会長および候補者の出身により得票数の違いが反映している。執行部への対応の温度差の違いと解釈できます。

ただ、全国的に見て大阪の得票数は最低レベルであり、医師会の政治的実力を充実させる努力は更に必要であると考えます。